

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市中部リハビリテーションセンター 中部地域生活支援センター	評価対象年度	令和3年度
事業者名	・事業者名 社会福祉法人 川崎聖風福祉会 ・代表者名 理事長 野神 昭雄 ・住所 川崎市川崎区池上新町3丁目1番8号	評価者	障害者施設指導課長
指定期間	平成3年4月1日～令和8年3月31日	所管課	健康福祉局障害保健福祉部 障害者施設指導課

2. 事業実績

利用実績	相談支援活動件数 6,309件 地域活動支援センター登録者数 163名 (令和4年3月31日現在)																										
収支実績	<p>[R3]</p> <table border="1"> <tr> <td>収入</td> <td>支出</td> <td>収支差額</td> </tr> <tr> <td>経常活動 40,175千円</td> <td>経常活動 36,675千円</td> <td>2794千円</td> </tr> <tr> <td>給付費 992千円</td> <td>人件費 28,129千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>川崎市単独扶助 0千円</td> <td>事務費 5,884千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指定管理委託料 38,600千円</td> <td>事業費 2,662千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>拠点区分間繰入 0千円</td> <td>拠点区分間繰入 0千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他 583千円</td> <td>固定資産支出 706千円</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計 40,175千円</td> <td>合計 37,381千円</td> <td></td> </tr> </table> <p>※端数処理のため合計が一致しないことがあります。</p>			収入	支出	収支差額	経常活動 40,175千円	経常活動 36,675千円	2794千円	給付費 992千円	人件費 28,129千円		川崎市単独扶助 0千円	事務費 5,884千円		指定管理委託料 38,600千円	事業費 2,662千円		拠点区分間繰入 0千円	拠点区分間繰入 0千円		その他 583千円	固定資産支出 706千円		合計 40,175千円	合計 37,381千円	
収入	支出	収支差額																									
経常活動 40,175千円	経常活動 36,675千円	2794千円																									
給付費 992千円	人件費 28,129千円																										
川崎市単独扶助 0千円	事務費 5,884千円																										
指定管理委託料 38,600千円	事業費 2,662千円																										
拠点区分間繰入 0千円	拠点区分間繰入 0千円																										
その他 583千円	固定資産支出 706千円																										
合計 40,175千円	合計 37,381千円																										
サービス向上の取組	<p>・利用者が不安なく通所を継続できる運営を第一に考え支援にあたり、ワクチン接種が進んだこともあり、利用時の制限はせずにコロナ流行前と同条件に戻して運営を行った。また、令和3年10月には非常勤のピアスタッフ1名を採用し、相談支援や当事者活動支援における重層的な体制づくりを強化した。</p> <p>・地域リハビリテーションセンターは3次相談機関として各相談支援機関をバックアップする役割が求められており、中部リハビリテーションセンター内においても円滑な連携の在り方、地域リハセンターが支援すべき対象者を検討することを目的に、令和3年度に「中部リハビリテーションセンター連携強化プロジェクト」が発足し、個別事例の検討を通じて汎化可能な連携の在り方を探ることや各機関の専門性の強化に取り組んだ。</p>																										

3. 評価 (評価段階: 5~1.標準: 3.加点割合: 5→100, 4→80, 3→60, 2→40, 1→0)

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	利用者への支援	利用者に対する支援を確実に実施しているか	10	3	6
		利用者の障害特性に応じた個別支援等を実施しているか			
	事業成果	基本協定に規定する業務の範囲を適切に実施しているか	10	3	6
		指定管理施設としての事業目的を達成することができたか			
<p>(評価の理由)</p> <p>・コロナ禍ではあったが、定例プログラムは全て実施し、季節行事は利用者と一緒にしながら要望の多かったクリスマス会のみ実施。10月から非常勤のピアスタッフ1名を採用したことにより、ピア活動にも変化が生じ、「おしゃべりサロンはるかぜ」(フリーテーマのピアミーティング)など、新しい活動を展開した。また、県立中原養護学校からの依頼で高校3年生の学生1名を受け入れ、放課後の休息場所として過ごしてもらい、この経験が地域活動センターのミットや利用者像について、事業所内で再認識する機会となった。</p> <p>・川崎市と連携し、市外病院で川崎市内に居住地をもつケースと、市内5病院の意欲喚起を要するケースを対象とした退院支援を行い、前年度からの継続ケース7件と新規ケース5件、計12件の支援に取り組んだ。</p> <p>・ピアサポート活動支援として、利用者ミーティングをはじめ、ピアミーティング、WRAP講座、ピアサポーター講座などを開催しました。また、ひとりの利用者の「自分の病気に話したい」という発案から始まった「おしゃべりサロンはるかぜ」など新規プログラムを展開している。</p>					
収支状況	支出状況	計画に基づく適正な支出が行われているか	5	3	3
		支出に見合う効果等が図られているか			
	収入状況	計画通りの収入が得られているか	5	3	3
		条例に基づく利用料等を適切に徴収しているか			
適切な会計手続	会計基準に基づく会計処理がなされているか	5	3	3	
	事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
<p>(評価の理由)</p> <p>・収支ともに当初予算から大幅な増減なく適切な運営が行われている。また、会計手続については、法人の委託税理士が毎月の財務状況を確認し、修正事項が認められた場合、速やかに適正な会計処理となるように内部のチェック体制を整えており、決算終了後は監事監査を実施し、会計年度に係る計算書類や附属明細書等を適切かつ適正に執行されているか調査するなど、適正な処理が行われている。</p>					
サービス体制	適切なサービスの提供	提供すべきサービスが仕様書や実施計画等に基づいて適切に提供されたか	10	3	6
		利用者への支援を適時かつ十分に行っているか			
	サービス向上への取組み	現状分析、課題把握等を常に行っているか	5	4	4
		サービス向上に向けた取組みがなされているか			
利用者の意見・要望への対応	意見・要望の収集方法を確立しているか	5	3	3	
	利用者からの要望や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか				
<p>(評価の理由)</p> <p>・地域における障害福祉サービスの社会資源として、本人のストレングスに着目した丁寧なアセスメントや相談体制の構築に努め、電話や来所による個別面談を基本に、毎月のはるかぜ通信の送付や登録者全員への年賀状の郵送などを行った。また、ケア会議やモニタリング時は、家族、関係機関とも連携を拡げてカンファレンスを実施し、多角的な視点で支援の方向性を捉えるように取り組んだ。</p> <p>・毎日の職員ミーティングで利用者に関する情報共有を行い、緊急事態や苦情要望については、職員全員で状況把握し、迅速な課題解決に繋げている。また、施設運営のスーパーバイザーの出動日(毎週木曜)にあわせ、週1回1~2時間の拡大職員ミーティングも実施し、支援困難なケースの事例検討や、施設運営面での課題の共有化など対話重視で取り組んでいる。</p> <p>・職員や施設に関する意見・要望などの「利用者の声」は全てオープンにし、月1回の利用者ミーティングで協議、解決するようにしている。声なきニーズをキャッチできるアンテナをもつため、「風通しの良い環境づくり」と「早期解決への取り組み」を優先課題とし、セルフモニタリング時に実施している利用者満足度の調査票は簡易版のため、現在、項目数を見直し、次年度に向けた書式の作成準備を進めている。</p>					

組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員が必要な場所に適切に配置されているか	5	3	3
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修等が行われているか	5	3	3
	安全・安心への取組	事故、犯罪、災害等から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等)	5	3	3
		緊急時の連絡体制を構築しているか			
	コンプライアンス	法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	3	3
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか	5	3	3
(評価の理由) ・事故等、重要案件については、川崎市をはじめ、関係機関や法人本部に速やかに報告を行うとともに職員間で情報共有し、事故の防止策についてミーティング等を通じて協議して改善を行っている。 ・年2回、火災や地震を想定した防災訓練を中部リハビリテーションセンター内事業所と合同で実施するなど、緊急時における施設内全体の連絡・連携体制を構築した。 ・法人の「法令遵守規程」を全職員に情報展開して周知を行い、また、適正な職員配置のもと事務分掌を取り決め、事業が円滑、適切に運営できるように取り組んでいる。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか	5	4	4
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか	5	3	3
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか	5	3	3
(評価の理由) ・業務日誌などの個人情報の管理は、所定パソコンフォルダや鍵付きキャビネット内のケースファイルに保管している。基本的なセキュリティであるPCのログイン時のパスワード設定、メール送信時の添付ファイルのパスワード設定、FAX送信時の誤送信防止に職員2名での二重確認など事業所内全体での管理を徹底し、そのほか、日常業務中も机上に個人情報が掲載された書類は開いて離席しない、パソコンの画面を開いたまま離席しない、個人情報が含まれる書類はシュレッダーで廃棄する、デスクマット下に個人情報ははさまないなど対応を統一し、職員同士で注意喚起を行い、個人情報が含まれる書類を外部へ持ち出す際は、管理簿での記録・管理を徹底している。 ・設備や備品は、備品管理担当を中心に、開館時、閉館時に不備、不足、破損等がないかを職員複数名で定期的に確認しており、倉庫は利用者が誤って入らないよう、出入りの度に施錠管理をしている。					

4. その他加算

分類	項目	着眼点	評価点
その他加算	市の政策課題への取組	第三者へ一部の業務委託を行う際の市内中小企業者の受注機会の確保・拡大や地域包括ケアシステムの構築に向けた取組への協力、障害者の法定雇用率を越える雇用などを行っているか	0
(評価の理由)			

5. 総合評価

評価点合計	62	評価ランク	C
-------	----	-------	---

評価点合計:100点満点,標準点:60点

評価ランク:A~E,標準:・C,A→80点以上,B→70点以上80点未満,C→60点以上70点未満,D→40点以上50点未満,E→50点未満
A→特に優れている,B→優れている,C→適正である,D→改善が必要である,E→問題があり適切な措置を講じる必要がある。

6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が不安なく通所を継続できる運営を第一に考え、また、利用者ミーティング等を通じて意見や要望に対して迅速に対応できる体制を構築しており、また、ピアスタッフによる相談支援や当事者活動支援により重層的な体制づくりの強化に繋げている。 ・施設内において円滑な連携の在り方、支援すべき対象者像を検討することための「中部リハビリテーションセンター連携強化プロジェクト」を発足し、個別事例の検討を通じて汎化可能な連携の在り方を探ることや各機関の専門性の強化に努め、支援力の向上に取り組んでいる。
--

7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の意見意志を尊重した支援を実施していることは非常に評価ができ、今後も継続して支援向上に取り組めるよう取り組んでいただきたい。
--